

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修登録科目数の上限設定によって履修者数を適正化する	→開講科目数と履修者数	B	B	B	B	B
2. 教務主任等による学習指導や学生主任等による生活状況の把握によって成績不振者等の就学意欲を向上する	→「成績に関する面談」の対象となった当該学生の単位取得状況や進級・卒業状況	B	C	C	A	A
3. 「人文学の幅広い教養」を提供するためにシラバスの情報提供方法を多元化する	→ネットシラバスの閲覧およびダウンロード可能箇所数とそれぞれのアクセス数	D	D	D	D	D

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入門や概論などで履修者数が500名を超える科目が若干数見られたが、各総合科目の授業担当者が履修者制限を順次導入してきた(総合A:200名、総合B:150名、総合D:260名、総合N:150名、総合P:300名、総合Q:200名)。学科科目では各専修が申込制をとることで履修制限を行い、演習科目では上限25名の人数制限を行うことで、履修者数の適正化を図ってきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 履修者数の適正化がさらに進み、教員・学生にとってより望ましい学習環境に近づいた。課題としてはまだなお履修者数が多い科目があることが挙げられる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 履修者数の多い科目の担当者に積極的に働きかけ、履修制限により履修者数の適正化をさらに伸長する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度から成績不振の学生の面談の機会を設けてきた。成績不振の学生と保証人に対しては成績に関する面談の機会があることを伝え、希望者には副学部長・学部長補佐等が面談を実施し、就学意欲の確認を行ってきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 従来演習科目の担当者が個別に対応していた成績不振学生のケアを、演習科目に属していない学生も含めて実施できる体制が整った。また面談後の成績の検証を行った結果、向上した学生が多く見られた。課題としては本来面談した方がよいと考えられる学生が面談を希望してこないケースがあることが挙げられる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 成績不振の学生への連絡を密にし、面談に来る学生の数をさらに増やすことを目標とする。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	D	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度以降、シラバスによる情報提供はWebシラバスのみの状態が続いているが、多元化の一つとして、多くの教員が初回の授業時に紙媒体のシラバスを配布してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か Wifi環境の普及などにより、学生がシラバスにアクセスできる可能性が広がっているため、Webシラバスと初回授業の紙媒体のシラバスで講義内容の情報の提供は十分に行われている。課題としてはWebシラバスへのアクセス数の把握が十分になされていないことが挙げられる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か Webシラバスのアクセス数の把握は現在のところシステム上困難であるが、アクセス数把握のためのシステム改善の要望を出してゆく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆